

茶の湯文化学会会報 No.2

第2号/1994年8月10日 〒606 京都市左京区下鴨森本町15 TEL. 075-702-9270
発行 茶の湯文化学会 生産開発科学研究所内 FAX. 075-702-9314

「肥前名護屋の茶の湯」

名護屋城博物館 高瀬哲郎

豊臣秀吉が、「文禄・慶長の役」(壬辰・丁酉倭乱)において、朝鮮出兵のための基地として選んだのは、この肥前名護屋の地であった。いま、その当時の様子を狩野光信の描く名護屋(城)図から探ると、この一帯はまったくの散村に過ぎなかった所であるが、出陣に備えた大名衆やその家臣達が一同に集結し、さらに彼らに商いをする商人達が軒を連ねて町屋を造るなど、瞬く間に大都市へと変貌していったことが窺える。

しかし、国元から遠く離れた彼らにとって、出陣までの滞在は退屈だったのである。茶会・能・船遊びを催すなどして、日々を過ごしていたことが伝えられている。そのなかで、茶の湯の様子を「宗湛日記」から拾ってみると、この筆者である博多商人神屋宗湛が、豊臣秀吉、大名衆それに家臣等とかなり頻繁に茶の振舞いに興じていたことが解る。その場所は、各大名陣屋の「教寄屋」・「書院」それに「陣屋」等と記されており、必



狩野光信筆 名護屋城図屏風(部分)

ずしも茶屋には限られていないようであるが、特に注目されるのは、天正二十年五月二十八日の条である。豊臣秀吉が主催したこの日の茶会では、「金の座敷」に金の茶道具(台子・盆・棗・風爐・釜・柄杓・水指・井戸茶碗・茶杓等)が用意されたとあり、まさに、彼の好みを尽くした様子が偲ばれる。

そこで、今まで実施した各大名陣屋(豊臣秀保・堀秀治・徳川家康・古田織部・木下延俊・加藤嘉明等)の発掘調査から、「茶の湯」に関する事柄を拾ってみる。現在、遺構として教寄屋と考えられているものは、豊臣秀保陣屋と堀秀治陣屋で発見されている。前者の例は、接客の場となる書院から最も離れており、奥に位置している。約二×二・

七m(三畳)の礎石建物で、それに約一×〇・五mの小さな張り出しが付く。また、後者は礎石建物が二棟並ぶ配置で、いずれにも飛石が伝っている。規模は、両方とも約二・七×三・六m(六畳)とやや広く、四

畳半の茶室に一畳半の土間(庇)が付設した構造が想定されている。しかし、他の諸陣屋に於いても、ひとつの嗜みとして設けられていたであろう。先の宗満日記の例では、「高山右近の二畳敷床なし」「浅野長政の平三畳」「前田利家の四畳」「石田正澄の平三畳」「徳川家康の四畳半床なし」等とある。

また、「茶」に関わる遺物としても、確認できる資料はわずかに二点しかない。これも先の豊臣・堀陣跡から発見されており、いずれも美濃窯系の天目茶碗である。素地は灰白色の土で、それに茶あるいは漆黒色のいわゆる天目釉がかかっている。

以上のような発掘調査の状況でしかなく、肥前名護屋に於ける「茶の湯」の様子を窺い知るには程遠いようである。しかし、この地に滞在し、出陣を前にした大名衆にとって、茶や能を介しての人との交わりが、一時の安らぎであったことは確かであろう。この「佗び・寂び」の静寂な世界から、やがて朝鮮国そして日本国にとって悲惨な戦いへと進んでいく。



美濃窯天目茶碗 (発掘品)

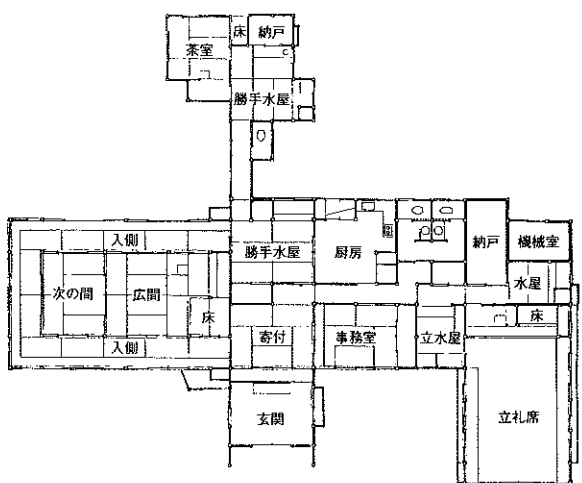
らぎであったことは確かであろう。この「佗び・寂び」の静寂な世界から、やがて朝鮮国そして日本国にとって悲惨な戦いへと進んでいく。

四日市市の茶室

三重県四日市に市の企画による茶室が近鉄四日市駅に程近い鶴ノ森公園の中に完成した。広く市民から公募して茶室の名が定められた。四日市には古来、四方所に名水の湧く所があり「泗水の里」と呼ばれていたという。選ばれた名はその「泗」ととった「泗翠庵」である。

施設は立礼席と広間、小間及び事務室等から成る。立礼席では来園者が気軽に茶を飲んで貰うよう日常的に呈茶をおこなう。同時にまた外人のもてなしが意図された。広間と茶室は種々な茶会や茶の研修に供すると同時に、広間は茶の湯以外の室内芸能にも利用できるようにと多目的性が考慮されている。

門を入るとまず右手に立礼席がある。客は腰かけて点前を拝見しながらお茶を頂くことの出来る構えになっている。中央の玄間を入ると寄付があり、ここから広間へ誘導される。広間は主室九畳敷に六畳の次の間がつき、入側(畳縁)を三方にめぐらし、座の伸縮を可能にしている。勝手水屋は六畳、厨房も付属している。小間北方に離れて建てられ別境を形成する。その水屋と広間の水屋とは廊下で



繋がれている。茶室は五畳半、すなわち下座床を設けた四畳半に一畳の点前座を付し、中柱を立てて炉を台目切としている。点前座が丸畳なので一層室内にゆとりが感じられる。立礼席と主室は棧瓦葺寄棟造りの屋根で穏やかな姿に形づくられ、小間は銅板葺で庇を付けおろした軽快な外観を見せている。庭と露地は未完成だがそれが整えばさらに魅力に富む施設となろう。

この施設を通じて市民生活の心を豊かにし、茶の湯の振興と共に地域文化の高揚を図るべく、市当局は並々ならぬ期待をかけている。

平成六年度第一回理事会報告

平成六年度最初の理事会が六月四日(土)午後四時から京都市中京区のウイングス京都で行われた。出席者は会長・副会長と理事十五名。

最初に中村会長の挨拶があった後、出席者が自己紹介をしてから議事に移り、各担当理事から報告があった。その要旨は左記の通り。

平成五年度事業報告

十月十六日設立総会、二月十二日総会・大会および第一回理事会が行われた。

六月四日現在の会員数は普通会員七五九名・維持会員八七名、計八四六名。

平成五年度会計報告

会費収入に対して支出が少なく、次年度への繰越金が多額なのは、本来ならば年度内に出入されるべき会誌や会報などが次年度へずれ込んだため。

平成六年度事業案

総会・大会 今年度の総会・大会は十月二十九日(土)にホリデイ・インで行う。内容は各二十分の研究発表七名、布目潮瀧氏の「唐代の茶器」と題する講演および懇親会。会員サービスとして京都市内の美術館の割引

入場券発行を予定。平成七年度以降は総会と大会を切り離し、東京でも開催の予定。

研究会

八月に一回、二月か三月に一回の計二回を京都で行い、内容は六十分程の研究発表二名とする。平成七年度以降は年間二〜四回行い、京都以外の地域でも開催する。また内容も研究発表のほか、シンポジウムや見学会も開催する予定。

会報

当分は年四回、各四ページなどとする。今年度は五月・七月・十一月・二月に発行する予定。内容は事業報告や事務局報告のほか、依頼原稿や会員からの投稿も掲載する。

会誌

平成五年度分創刊号を総会・大会までに発行し、今年度分第二号は年度末までに発行する。

平成六年度予算案

事業計画が予算案作成の段階では未確定な部分が多く、会費収入も正確な予測が出来ないのでごくおおまかな予算案になっている。

以上の議事に対してそれぞれ質問・提案などが出席理事から出され、質問に対しては担当理事から回答し、また提案事項は今後検討することとし、全議案が原案通り承認された。

平成六年度総会・大会のお知らせ

平成六年度の茶の湯文化学会総会・大会を左記のとおり開催いたします。あらためてご案内いたしますが、ご予約おき下さいませようお願いいたします。

記

日時 一九九四年十月二十九日(土)
会場 ホリデイ・イン京都 ホリデイホール
京都市左京区川端通北大路下る
参加費 千円
次第

受付 九時三十分より

研究発表 十時〜十二時 四題

総会 一時四十分〜二時三十分

研究発表 二時四十分〜四時十分 三題

講演 四時三十分〜五時三十分

布目潮瀧氏 「唐代の茶器」

大唐長安展に寄せて

懇親会 六時〜八時(懇親会費 九千円)

総会・大会開催にあわせて会員サービスとして、京都文化博物館・野村美術館・茶道資料館・楽美術館・北村美術館などの入館割引券を発行する予定です。

大会発表者の募集

平成四年十月二十九日開催予定の大会における研究発表者を左記の要領で募集します。ふるってご応募下さい。

一、研究発表の内容

広く茶湯文化に関する研究。

二、発表時間

一題当り二十分、質疑十分。

三、応募資格

茶の湯文化学会会員。

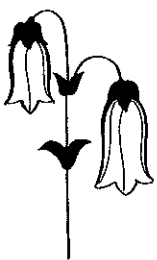
四、応募方法

九月十五日までに茶の湯文化学会事務局まで、以下の項目について記入し、郵送すること。封筒には「大会研究発表応募」と朱書すること。

①題目 ②内容要旨(八百字程度)

③発表者氏名・所属・連絡先・年齢

発表希望者が予定人数を上回ったときには、主催者において発表者を決定する。決定通知は九月下旬の予定。



研究会開催のお知らせ

茶の湯文化に関わる各分野の研究報告を行い、研究の進展を目指そうとする第一回研究会を左記の通り開催しますので、ふるってご参加ください。

日時 平成六年八月二十七日(土)

午後一時三十分～午後四時三十分

会場 京大会館(京都市左京区吉田河原町

十五の九 左の図参照)

報告 (一)「蒔絵師原羊遊齋と松平不昧」

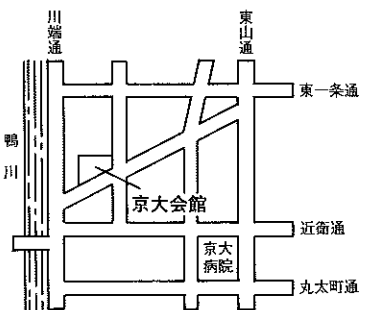
小林祐子氏(学習院大学大学院)

(二)「過眼録と酒井抱一」

影山純夫氏(山口大学助教授)

会費 茶の湯文化学会会員は無料

(非会員は五百円)



京大会館

〒606 京都市左京区吉田河原町15-9

TEL(075)751-8311(代)

FAX(075)761-5403

事務局報告

*会報第二号をお届けいたします。三重県と佐賀県でのニュースをご投稿いただきました。平成六年度の総会・大会、研究例会の予定も決まりました。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

*会報への投稿を募集しています。茶の湯文化に関するものであれば内容は問いません。

千字程度の原稿と写真(二枚)を添えて、事務局会報係までお送り下さい。掲載・体裁などについては事務局にご一任ください。

*八月に研究例会が行われますが、来年春季にも第二回の例会が行われる予定です。例会報告書を募集しています。一題につき報告をお

よそ一時間、質疑応答に三十分程度で、二題を予定しています。例会での報告を希望される方がありましたら、事務局までご連絡下さい。

*過日、平成六年度の会費振り込み用紙を送らせていただきました。振り込みのお済みでない方はなるべく早めにお願致します。

*会誌「茶の湯文化」創刊号も順調に編集が進み、この秋には刊行の予定です。

*次回の会報は十一月頃に発行の予定です。